コミわか土曜朝市

令和3年度のコミわか土曜朝市終了しました。

12月4日(土)を持ちまして、本年度のコミわか土曜朝市は終了しました。コロナ禍で各種行事の中止を余儀なくされる中、朝市の開催について検討した結果、屋外での開催であり、「感染防止対策を行った上で開催する」こととしました。

生産者・スタッフ共マスクの着用、手指消毒用品の配備などの対策を行い、7月31日(土)から開催することが出来ました。

8月1日に感染警戒レベルが「4」に上がった為検討の上、「レベル4」でお茶飲みコーナーの中止、「レベル5」で朝市を中止することにしました。8月16日に新型コロナウィルス感染警戒レベルが「5」に引き上げられた為、土曜朝市は一時中止としましたが、9月13日の感染警戒レベル「4」への引き下げに伴い、9月18日(土)から再開し、最終日の12月4日迄、15回開催することができました。毎年好評の最終日に行う「すいとんの振る舞い」はコロナ感染を考慮しやむをえず中止としましたが、次年度は平常通りに開催出来ることを願わずにはいられません。

本年度の売上総額は約97万円(昨年度：約138万円)、軽トラ出店台数は延154台(昨年度：延193台)でした。コロナ禍で不要不急の外出を自粛する生活が続いている中、ご来店いただいたお客様にはこの場を借りて感謝申し上げます。また生産者やスタッフ、各部会の皆様のご協力をいただき無事に終了ことができましたことを、厚く御礼申し上げます。

次年度も、皆様のご要望・ご期待に沿えるよう取り組みますので、宜しくお願い致します。

コミわか土曜朝市の会　会長　渡邉　進

人権に関する作文発表(北部中学校)

コミわかでは人権教育・啓発活動として毎年住民集会を開催し、小中学校のみなさんに人権作文を発表していただいていますが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため住民集会の規模を縮小しました。作文(原文のまま)は広報紙よる発表とさせていただきます。この機会にぜひ人権について考えてみませんか？　（人権教育部会）

パラリンピックと「教育的価値」について思う事

長野市立北部中学校三年　小澤　陽斗

二〇二一年、夏のオリンピックが東京で開催されました。コロナ禍での開催だったので、開催前も開催中も様々な意見が飛び交っていました。しかし、私は卓球男女混合ダブルスの水谷・伊藤ペアの、負けそうになっても絶対に最後まであきらめずに食らいついていくプレーに興奮し、心動かされました。コロナ禍で我慢しなくてはいけないこともあるけれど、自分の今の目標に向かって頑張っていこうと思いました。

そんな中、東京パラリンピック競技を都内の小中高生ら十三万人超に観戦させる「学校連携観戦プログラム」についての報道が夕方のニュース番組や、新聞、ワイドショーなどで多く取り上げられていました。その多くは、コロナ禍においてそのプログラムのために子どもたちを動員することの是非を問うものでした。そのやりとりの中、私が一番気になったのは、小池都知事の「五輪とまた違った意味でパラリンピックのパフォーマンスを実際に見て頂くことは、極めて教育的価値が高い」という発言です。私はこの「教育的価値」という言葉に何とも言えない違和感を覚えました。「パラアスリートは教材ってこと？」と思ったからです。「目標に向かって努力して、結果に一喜一憂する姿は、障害を抱えている人もいない人も何ら変わりない。」と、私は考えます。

私が少年野球をやっていたとき、チームメイトに耳があまり聞こえない子がいました。その子はとても明るく元気で、キャプテンを務め、みんなをぐいぐい引っ張ってくれました。私がバッターボックスに立っている時、誰よりも大きな声で応援してくれ、とても勇気づけられたのを覚えています。いつも一緒に練習して、野球の話もたくさんして、試合をして、それは何一つ特別な事ではなく、私や、チームメイトにとって当たり前の事だったからです。耳が聞こえるとか聞こえないとかそういったことは、考えたこともありませんでした。

今回、パラリンピックをテレビで観ていて私は車いすテニスの難しさに驚きました。テニスボールの落下地点を予測しながらすばやく車いすを操作して打ち返す。この一連の動きがとても速くて、自分だったら出来るのだろうかと思いました。障害を抱えた人達は、練習に練習を重ねて、自らの限界に挑戦し、その人たちにとって一生に一度あるかないかのパラリンピックという大舞台に挑戦しています。その姿を「教材」として観ることによって子どもたちの感性を磨くということだとしたら、パラアスリートにとても失礼な事なのではないかと私は思います。障害のある人達にとって、障害を自分の一部分として、必死に努力して、スポーツに向き合っている姿は、シンプルにかっこいいし、それは、オリンピックに出ていたアスリートたちや、障害のない人たちと何も変わらないのではないでしょうか。それなら、パラリンピックの競技や、障害について一緒に語り合ったり体験したりすることの方がずっと「教育的価値」があるのではないだろうかと私は考えます。

今回、「教育的価値」という言葉について考えて感じたことは、パラリンピックだから教育的価値が高いという事はないということです。障害を抱えていても、いなくても、一つのことに一生懸命取り組んでいる人はみんなかっこいいし、自分もそういう人になりたいと思いました。そしてどんな人とも対等に誠実に向き合い、何か支えを必要としている人がいたら、自然に助けられる、そういう人になりたいと思いました。